



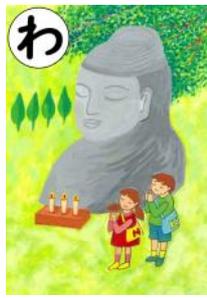
ら

ライン滑降

関温泉から妙高小学校までの7kmの間を滑走する「妙高ライン7キロ滑降スキー大会」は、昭和38年

(1963)に第1回大会が開かれた長い歴史をもつ。毎年小学生から壮年組まで全国からスキーヤーが多数参加しており、参加した子どもの中から、オリンピック選手も出ている。

ら
ライン滑降
スキーがうまい
地元っ子



わ

食料地蔵 (新潟県指定文化財)

関山神社の南50mの辻に立つこの石仏は、拝むと食料に困らない地蔵と伝えられているが、実は地蔵

ではなく、弥勒菩薩と考えられている。妙高堂の横にある26体の石仏のほか、関山集落内には9体の石仏が点在している。まさに石仏のまち“せきやま”である。

わ
若葉風
辻に御座せる
石仏
(秀峰の句)



り

龍旗 (妙高市指定文化財)

関山神社内に納められている龍旗は、赤い羅紗の布地に金糸と銀糸で、上り龍と下り龍を刺繍した立派な旗である。上杉謙信公が五穀豊穡や領内の平和を祈って、妙高山参詣登山を主催する宝蔵院に奉納されたものとされている。

り
龍の旗
謙信公からの
おくりもの



る

宝蔵院日記 (新潟県指定文化財)

宝蔵院最後の院主第18世量潤が還俗して興した関山家に伝えられた日記史料。正徳2年(1712)から慶応4年(1868)までの156年間の記録は98冊を数え、当時の様子が克明に記録されている。平成18年

(2006)から平成22年(2010)までの5か年で活字に直された。

る
縷々の
歴史をのこす
宝蔵院日記

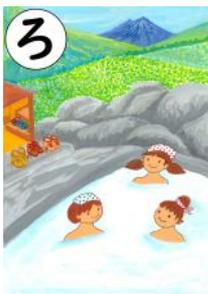


れ

大鹿神社

大鹿は縄文時代後期から人が住み始めた古い村である。集落を見下ろす高台に大鹿神社がある。昭和13年(1938)にそれぞれの地区にあった神明社、諏訪社、春日社、稲荷社と村社の八幡社が合併し、大鹿神社と改称した。静寂のなかに居ると神がすぐ身近に居るように感じられる。

れ
歴史ある
五社を集めて
大鹿神社



ろ

露天風呂

燕温泉から妙高山登山道を進んでいくと、知る人ぞ知る秘湯「河原の湯」がある。ラジウムが多く溶け込んでいるため、効き目がよいと評判である。また昭和38年(1963)「黄金の湯」が燕温泉の薬師堂の近くに開湯した。いずれも登山客や宿泊客に人気の名湯である。

ろ
露天風呂
登山客に
いやしの湯



第1回妙高かるた大会の様子を紹介
子どもや大人の8チームが参加。「妙高かるたの遊び方・団体競技」により実施 (令和3年12月5日)

会場は、関山神社の社務所



熱戦を繰り広げる大人チームと子どもチーム



第1回妙高かるた大会終了後の記念写真